

パネルディスカッション2

多様な言語文化の背景を持つ子どもの成長を育む環境づくりの新展開
～連携の「いま」と「これから」～

京都市教育委員会主催事業の可能性を広げる様々な連携

—三つの事業から生まれた新たなつながりの事例から—

大菅 佐妃子（京都市教育委員会）

外国につながる子どもたちの教育においては、義務教育に就学する前から修了卒業の後まで学習面や生活面等での様々な指導や支援が必要である。しかし、教育委員会だけで取り組めることには限界があり、主には、所管する市立の学校や幼稚園での教育活動における指導・支援に限定される。そのような中で、外部の様々な団体と連携することにより、取組が充実し、今後新たな展開が期待できる事業を三つ紹介したい。

1. 「日本語を母語としない生徒や保護者のための『多言語進路ガイダンス』」

本ガイダンスは、京都府で様々な立場にある有志が集まった「渡日・帰国青少年のための京都連絡会」によってはじめられたもので、平成24年度からは京都市教育委員会の主催事業となった。前半に中学校卒業後の進路の概要と日本語指導を受けていた先輩生徒の話を聞く全体会があり、後半には母語別相談会（保護者向け）と、先輩や他校生徒との交流会（生徒向け）を行う。通訳者も配置し、参加者がお互いに情報交換できる場づくりをめざしている。令和2年度からは、コロナ禍もありオンラインを活用し、保護者説明会と生徒交流会とを分けて実施している。

1.1. 京都府教育委員会、京都府国際センター、京都市国際交流協会とのつながり

京都市教育委員会が主催する事業となっても、従来通りの「京都府内全域からの参加」「地域の日本語教室で高校進学に向けて準備している人たちの参加」が可能な事業として継続することを重視した。その実現のため、京都府教育委員会、京都府国際センターや京都市国際交流協会に後援を依頼しており、現在に至るまで関係機関の連携・協力が続いている。

1.2. 先輩生徒（学生）、高等学校等とのつながり

先輩の高校生や大学生との交流会で直接に話を聞く機会を得て、「がんばったら高校に行ける！」「この先輩と同じ高校に行きたい！」という思いを抱いた中学生は少なくない。また、先輩生徒（学生）の多くはこのガイダンスに参加した経験があり、交流会への参加を依頼すると「中学生の役に立ちたい。」と前向きに検討してくれる。同じ経験をした青少年の間で、確かなつながりが生まれていることも意義深い。加えて、市教委担当者が先輩高校生の在籍する高等学校を訪問し本事業の説明をすることで、高等学校においても理解が深まった。令和3年度の「多文化共生社会実現に向けた研修会」（教職員対象）では、対象生徒の在籍が多い高等学校2校から講師を招聘し、高等学校での取組や現状を聞く機会を設けることができた。

1.3. オンライン実施による新たなつながり

集合対面形式のみの実施の際は、京都府内の中学校からは、「参加が難しいので資料を送付してほしい」という依頼がいくつもあった。会場は京都市内にあり、京都府北部や南部からは、時

間と費用の両面において参加が難しいという事情によるものである。オンライン実施に切り替えて最もよかった点は、遠方からも気軽に参加が可能となったことであろう。実際に京都府内からの参加者があり、「相談できてよかった。」という声もきかれた。また、京都を離れてくらししている先輩の大学生も参加しやすくなった。こうしたことから、来年度以降は、対面・オンラインどちらでも参加可能なハイフレックスでの開催を目指したい。

一方で、会場確保や機器の準備、対応可能な人員確保などの課題も数多く残っている。これまで京都市教育委員会以外の機関は、後援という立場で主に広報を担って頂いたが、今後はこれらの課題解決のためにも、準備段階から協働できるような連携・協力の体制を構築していきたいと考えている。

2. 「多言語による『小学校生活親子オリエンテーション』」

本事業は令和元年度に試行し、翌年度から実施を開始したが、すぐにコロナ禍に見舞われ、令和3年度から保護者のみ対象のオンライン実施となった。支援が必要なすべての保護者に広報が届くように、入学手続き時に手渡す資料に含めて配布している。

令和2年度の本事業には12校から16家庭の申込があり、前半は全体説明会（保護者向け）と日本語教室での体験学習（子ども向け）を実施し、後半は親子で参加する読み聞かせ体験を行った。その中では、「同じ小学校に入学する」「母語が同じである」といった保護者同士が活発に交流し、互いの連絡先を交換する方も多く見られた。また、体験学習での子どもたちの様子を観察し、日本語指導が必要な子どもが在籍する予定の小学校に連絡を入れ、就学の前から各学校との連携を密にしている。

2.1. 京都市内の学生団体とのつながり

令和3年度から、京都市内を中心にプレスクールを運営している学生団体「りんぐえっじ」（立命館大学）と連携している。就学前の保護者への広報について、同団体から依頼があった際には、教育委員会としてその趣旨に賛同し、保護者の積極的参加を促すための情報提供を行った。その結果、オリエンテーションでの広報を通して参加申し込みがあり、プレスクールが実施されるに至った。現在もこの活動は継続されている。（「りんぐえっじ」の活動は、令和5年1月24日付京都新聞朝刊で紹介された。）京都市としてプレスクールを開催するには、教育委員会だけではなく私立幼稚園や保育園等を管轄するそれぞれの機関と連携する必要がある、実現にはまだ時間がかかると思われる。今後も「りんぐえっじ」の活動が持続可能なものになるよう、保護者や子どもの参加への情報提供だけではなく、運営面等においても連携・協力を図りたい。

3. 京都女子大学日本語教師課程の「日本語教育実習」実施への協力 ※大学とのつながり

令和2年4月、文化庁委託事業として日本語教師課程を新規に開設し、令和4年度から日本語教育実習を実施されるにあたって、京都市立学校が実習先の一つとなった。日本語教育実習の受入は京都市立学校としては初めてのことであり、実施の時期・実習カリキュラム等について、受入校や大学と教育委員会が協議しながら決定することとなった。

教員志望の学生が、本実習を経て実際に教壇に立つことの意義は大きい。また、実習を機にボランティアとして日本語指導が必要な子どもにかかわりたいという学生もあり、在籍学級や今後実施予定のオンライン学習での支援など、新たな支援の場で活躍してもらおうことを目指している。